

(別添3)

## 【山形県】

### 校務DX計画

1 「第7次山形県教育振興計画（案）」における教育DXの実現について

「第7次山形県教育振興計画（案）」では、本県の教育目標「ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり」を実現するための方針の一つとして、「社会の変化に対応した学びの環境を整える」ことが挙げられている。この中で、「教育DXを実現する」取組みを下記のように示している。

方	針	3	社会の変化に対応した学びの環境を整える
	アクション	6	教育DXを実現する
	施	策	13 デジタル人材の育成とICTの活用
			主な取組み（一部抜粋）
			(1) 児童生徒のICT活用の推進
			(2) AI活用に向けた環境整備
			(4) 教育データの分析・活用の促進
	施	策	14 ICT環境の整備
			主な取組み（一部抜粋）
			(1) ICT設備等の充実
			(2) ICT運用支援の充実

今後、これらの取組みを実施し、教育DX、校務DXの観点でさらに校務の効率化を推進していく。

2 「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」における課題及び解決へ向けた取組みについて

「GIGAスクール構想の下での校務のDX化チェックリスト」において、本県での課題となっている点は下記の通りである。

- ・教職員と保護者の連絡のデジタル化が進められていない。
- ・学校内の連絡のデジタル化が進められていない。
- ・県立特別支援学校において統合型校務支援システムが導入されていない。

これらの課題を解決するため、(1)～(3)へ取り組むことで、校務DXの推進を図る。

(1) 標準的なGIGAスクール環境・汎用クラウドツールの一層の活用

本県では、「Google Workspace for Education」を導入し、教育、校務ともに活用を推進している。しかしながら、その活用が教育、校務の一部の取組にとどまっている状況である。教育委員会としてICT活用に係る研修等を実施し、職員間で好事例の情報共有を図る等、標準的なGIGAスクール環境・汎用クラウドツールの一層の活用を推進していく。

(2) 学校が校務DXに取り組むための環境面・ルールの整備・周知

教育、校務でのクラウドサービスのより一層の活用を推進するためには、環境面・ルールについて必要な整備及びさらなる周知が必要である。

具体的には、クラウドサービスを活用した職員勤務管理システムの導入により、各種申請の電子化を図る。また、学校から保護者への連絡ツールとして、クラウドツールの利用を推進する。その他、クラウドサービスで取り扱うことのできる情報資産を見直し、教育情報セキュリティポリシーの改訂を行うとともに、各県立学校へのICT支援訪問業務及びネットワーク担当者会の充実を図る。

### (3) 次世代校務DX環境の整備

本県では、令和8年度に教育情報システム基盤及び教育情報ネットワークの更改を予定している。更改に合わせて、全県立学校においてパブリッククラウド上に構築した統合型校務支援システムの利用、ネットワーク統合、強固なアクセス制御に基づくセキュリティ対策の実施等を前提とする次世代校務DX環境を整備し、学校における働き方改革、教育活動の高度化及びレジリエンスの確保の実現を図る。